

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-027	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Age at first drink, drinking, binge drinking, and DSM-5 alcohol use disorder among Hispanic national groups in the United States. ヒスパニック系アメリカ人の飲酒開始年齢、飲酒、大量飲酒および DSM-5 アルコール使用障害</p>		
執筆者		
Caetano R, Mills BA, Vaeth PA, Reingle J.		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2014 May;38(5):1381-9. doi: 10.1111/acer.12354.		
キーワード		PMID
飲酒開始年齢、ヒスパニック系アメリカ人、大量飲酒		24689445
要 旨		
目的：		
本研究はヒスパニック系アメリカ人における飲酒開始年齢と飲酒、大量飲酒と DSM-5 アルコール使用障害(AUD)を調査する。		
方法：		
2 つの独立した研究より対象者を得た。1 つは Hispanic Americans Baseline Alcohol Survey であり、マイアミ、ニューヨーク、フィラデルフィア、ヒューストン、ロサンゼルスから抽出された世帯から 18 歳以上の 5,224 名を対象とした。もう一つの調査は、メキシコとの境界に在住しているメキシカンアメリカンの世帯から構成された、境界地域の回答者(n=1307)を対象とした。両調査では、コンピューターを利用したインタビューによりデータを収集した。Hispanic Americans Baseline Alcohol Survey および境界域での調査における応諾率はそれぞれ 76%, 67%であった。		
結果：		
アメリカ生まれのヒスパニック系住民では外国生まれのヒスパニック系住民よりも飲酒開始年齢が若かった。外国生まれヒスパニック系住民において、アメリカに移った年齢と飲酒開始年齢は相関しなかった。飲酒年齢が若いほど平均飲酒量は多く、多量飲酒および DMS-5 AUD の可能性が高いという仮説を本研究の結果は支持した。しかし、national groups による飲酒開始年齢とアルコール関連のアウトカムとの間に明瞭な一貫した関連は見られなかった。		
結論：		
ヒスパニック系アメリカ人において若年齢の飲酒開始は飲酒行動パターンと正相関する。しかし、他の地域でのアルコール疫学では、ヒスパニックの飲酒開始年齢と飲酒に関しては一貫した傾向はみられなかった。		